

様式第 3 号（第 4 条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和 2 年度第 1 回丹波篠山市あいさつ運動市民委員会

2 開催日時

令和 2 年 9 月 7 日 月曜日 13 時 30 分から 15 時 04 分まで

3 開催場所

丹波篠山市役所第 2 庁舎 3 階 301・302 会議室

4 会議に出席した者の氏名

(1) 委 員 （敬称略・順不同）

西潟弘 瀧山玲子 大前光 数元康治 山内幸宣 田端俊典  
堀香織 酒井宏 北野康子 家澤直美 本荘正子 泉より子  
土性里花 西田由美子 杉村肇

(2) 執行機関 事務局 市民生活部 部長 羽馬辰也

人権推進課

課長 麻田英史 課長補佐 団野顕一 係長 奥山直美

5 傍聴人の数

なし

6 議題及び会議の公開・非公開の別

全て公開

7 非公開の理由

該当なし

8 会議資料の名称

令和 2 年度第 1 回丹波篠山市あいさつ運動市民委員会次第 ほか

9 審議の概要

(1) 開会 13 時 30 分

(2) 委嘱状交付

(3) あいさつ

(市長)

みなさんこんにちは。本日は、令和 2 年度第 1 回目のあいさつ運動市民委員会に、

それぞれお忙しい中、ほとんどのみなさんにご出席いただきありがとうございます。台風は、大きな被害がなく何よりでした。このところ、新型コロナウイルスの影響で、こういった会合もなかなか開催が難しくなっております。今日はこのように間隔をあけ、一堂に会されて大変意義のあることだと思っております。みなさんご活躍をお願いいたします。

市のイベントもなかなか開催が難しく、デカンショ祭りもオンラインという形で開催し、多くの方に参加したり見ていただいたりすることができました。これから実りの秋を迎えますが、各地で行われるお祭りなどは開催が大変難しいようです。味まつりなども、秋の丹波篠山をオンラインという形や、また丹波焼の陶器祭は期間を2日から1か月に伸ばすなどして、色々な形で盛り上げていきたいと思っています。

市ではこれから先、多くの方に観光がきっかけで住みたいと思っていただきたいと考えており、また、今は農村回帰というような方向が出てきているところです。より住み良いまちづくりのために、今日のこの「あいさつ運動」については市としてずっと力を入れてきております。それぞれを思いやってあたたかいまちを作るということが、一番住み良さの基本となる場所だと思っております。みなさんそれぞれ色々な分野で、リーダーとしてご活躍をいただいておりますが、さらによろしく願いいたします。市役所でも「元気なあいさつを」と啓発していますが、出来ていたり出来なかったりということがあり、みんなで言い続けて良い雰囲気を作っていきたいと思っております。市役所はもちろんですが、学校や地域やそれぞれの団体におかれましてもみなさんで声かけをしていただき、さらに元気なあいさつをして、「あいさつがこだまする、住み良い愛のまち」にしていきたいと考えておりますので、みなさんどうぞよろしくお願いいたします。

#### (4) 自己紹介

名簿順に自己紹介

#### (5) 条例、要綱の説明

資料に基づき事務局が説明

・市長、他の公務のため退席

#### (6) 正副会長選出

立候補 なし・事務局案 承認

会長 土性 里花さん 副会長 西潟 弘さん

・土性さん、西潟さん、正副会長席へ移動、あいさつ

(会長)

みなさん、改めましてこんにちは。こんな台風の風の強い時に15人も出席いただきありがとうございます。2年の任期ということで、副会長とともに務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。では、さっそく次第に沿って議事をすすめます。

6番、7番、8番と事務局一括で説明をお願いします。

(7)「あいさつ運動」啓発事業について

(8)令和2年度「あいさつ運動」啓発事業について

(9)令和3年度「あいさつ運動」啓発事業について

(事務局)

資料に基づき一括説明

(会長)

それでは、6番、7番、8番についてご意見やご質問のある方はいらっしゃいますか。

(会長)

おはようカードとは、どんなものでしょうか。

(事務局)

あいさつ運動強化週間の期間中、A4サイズのカードに、「あ」明るくあいさつしよう、「い」いつもあいさつしよう「さ」先にあいさつしよう「つ」つづいてあいさつしようという4つの目当ての中から1つを選び、それがその日に達成できたかということ、  
「よくできた」は3つ、「できた」は2つ、「もう少し」は1つ、イラストに自分の好きな色で塗るといふものです。

(会長)

それは学校の先生に提出するものでしょうか。

(事務局)

そうです。児童分をお配りしておりますので、みなさん一人一人に書いていただき、担任の先生に集めていただきます。

(会長)

最終的に市に提出されるということですね。これまでの結果としては、達成度はどのような感じでしょうか。

(事務局)

令和元年度の春の集計結果では、87%の児童が「よくできた」「できた」と2つまたは3つに着色をしているということが、集計から分かっております。

(会長)

わかりました、ありがとうございます。その他にご意見ご質問はありますか。

(委員)

民生委員児童委員やまちづくり協議会ではボランティアで朝の立ち当番というものが

あり、黄緑色のウェアを着て見守りを兼ねたあいさつ運動をしています。残念ながら中学生や小学生でも中には声が出ていない子もいます。各地域、まちの所々に立っておりますが、恥ずかしくて声が出ないということもあると思います。

(会長)

委員はどちらの地域でどれくらいの期間活動されていますか。

(委員)

私は篠山の本通りを、学校まで子どもたちと一緒に歩いて行きます。各まちで当番があります。中学校で新 1 年生の時は、小学校であいさつをしていたのでできる子が多いのですが、少しずつ雰囲気が変わってきます。やはり恥ずかしいのか、あいさつできない子が増えてきます。

期間としては、民生委員児童委員になってから 9 年間活動しています。

(会長)

小学生の時はあいさつしていたけれど、中学生になると恥ずかしくてできない子がいるということですね。他の地域ではどうでしょう。見守り隊など把握されている委員はいらっしゃいますか。

(委員)

私自身は参加していないのですが、岡野地区では小学生でもあいさつが返ってこないことがあります。学校の近くではとても元気なあいさつができていけれど、地域の裾野だと元気がなくなってくる傾向があるように感じます。あいさつが浸透してしっかりできている地域もありますが、それぞれの家庭の雰囲気も反映して、返ってこないということもあると思います。

(会長)

私が今田地区の見守り隊の方にお聞きしますと、最初は自治会長が立ってくださっていたのですが、今は 2 名の女性の見守り隊の方がいらっしゃるそうです。その方たちによると、子どもたちがすごくあいさつをしてくれるということです。毎年、年度末になると学校でお礼の手紙をもらえるそうで、ご自分が死んだら棺桶にこの手紙を入れて欲しいとおっしゃられています。今田小学校まで 4 kmほど一緒に歩くそうですが、中学校に行ってもちゃんとあいさつをしてくれるそうで、お母さん方ともグループラインでやりとりをされておられるそうです。小学校では、堀校長先生が熱心にあいさつ運動をされているので、とても気持ちよく見守り隊をさせていただいているとお聞きしています。地区によって、雰囲気が違うのかもしれませんがね。

(委員)

自治会長会としてのあいさつ運動の取り組みは特にはないのですが、私は城南地区に住んでおり、地区の自治会長をしている関係上、子どもたちに顔を覚えてもらっているということもあり、よくあいさつしてもらっています。

(会長)

それでは、あいさつ運動についてお一人ずつ一言いただけますでしょうか。

(委員)

あいさつ運動を啓発するタンポポの会を作って、約 18 名のメンバーで活動しております。そのタンポポの会で、去年からあいさつ運動啓発 DVD を作ろうと取り組んでおり、酒井貞子基金に DVD 作成のための資金補助の申請をしましたが、不備ということで承認されませんでした。DVD に添付するブックレットの中身はどのようなものか、5 月の申請時点では構想はあったのですが準備ができていませんでした。また、具体的に学校の先生にお話をし、確認をとることができていませんでした。それで慌てて聞きに回りました。篠山東中学校の溝端校長先生にお伺いすると、DVD 作成の主旨には大いに賛成なのですが、教育現場は今協力することはとても大変だと、新型コロナウイルスの影響で様々な授業が遅れており、また学校行事の延期や中止など、対応に追われているとのことをお話をいただきました。それを受けてタンポポの会の制作実行委員会で協議し、1 年間作成を延期しようという結論に至りました。あいさつの風景を撮るにしても、みんなマスクをしています。今は子どもたちの元気なニコニコ顔を撮ることができず、場面に入れることもできないということもあり、仕切り直しをします。

(会長)

酒井貞子基金の申請もあきらめずに、不備のところは 1 年間で準備していただければと思います。また来年頑張ってください、応援しております。

(委員)

畑地区に住んでおります。小学校は城北畑小学校に統合され、畑地区のバス通学の子どもは各公民館で降りますが、「おかえり」と言うのと「帰りました」と大きな声で返してくれます。中学生の男の子も女の子も自転車で「帰りました」とこちらの声が聞こえればちゃんと返してくれます。畑からできるだけ大きな声で声かけすると、大きな声で返してくれます。前年度のこの市民委員会で、あいさつというと、大きな声ですと気持ちが良い子ども達にもそういうことを望んでいますが、中には大きい声で言えない子どもたちもいて、負担に感じているということをお聞きしました。大きな声で言えなくても、その子にとっては会釈だけでも、ちゃんとあいさつできているということを受け入れていかななくてはということ学びました。そういう子もいるのだということも含めて、少なくとも言える人が言えば良いと理解してこの運動を進めていけば良いのだと、顔を覗き込むだけでも大丈夫だということをお教えしてもらいました。あいさつ運動は継続することが大事で、地域性もありますが、子どもに言いなさいと言うのではなく、大人や先生達が率先してする姿を見せることが大事であり、また、大きい声でできないことがあるということも受け入れられる地域や大人でありたいと思います。

(会長)

それぞれの個性を尊重し、元気の押し付けにならないあいさつを、ということですね。

(委員)

子どもと通学時に世間話をしながら行くので、家庭の様子が良く分かります。子どもはそれだけ素直なのだと思います。家庭も色々あると思いますが、できるだけ楽しい会話をするようにしています。中学生はやはり、恥ずかしいという気持ちがあるとあいさつできないこともあり、それはそれで理解して、親御さんも声かけしておられると思います。大きい声が出ればより良いとは思いますが。

(会長)

声かけだけでも喜ばれているのではないのでしょうか。

(委員)

「いいあいさつの日」の取り組みは、学校の臨時休校もあり、実施できていません。地域の子どもの人数は少ないのですが、登下校の時はあいさつがちゃんとできています。ただ、1日の生活の中で休みの日などに「こんにちは」など、生活面においてできていないこともあります。「おはよう」や「ただいま」だけでなく、様々なあいさつがあるということ、家庭の中でしつけることが大事であり、反射的にでもできるようになると良いなと思います。

私事で恐縮ですが、一つ、最近あいさつでの成功例がありますのでご紹介します。毎朝6時前にウォーキングをしているのですが、7月の終わり頃から知らない男性に出会うようになりました。国道を挟んであちらとこちらで距離があるので、初めは黙っていました。そんな状態が2~3日続いたのであいさつしてみたのですが、相手は無言でした。その後も毎日「おはようございます」と言い続けていると、お盆を過ぎた頃、あいさつすると会釈が返ってきました。しめしめと思っていたら8月24日からやっと「おはようございます」と言ってくれるようになりました。約1か月かかりましたが、うれしくてエッセイに書きました。その方が遅いときは、お宮さんに念入りにお参りをしたりしてその方を待つようになり、会わないと一日が始まらないような感じになっています。やはり、あいさつは続けないとダメだと実感しました。41,000人の内の一人の市民の話ですが、心が和みました。

(会長)

その方も毎朝お会いするのを楽しみにされているかもしれませんね。よく頑張られましたね。

(委員)

JA丹波ささやまでは、子どもと接する機会はほとんどないのですが、職員の中でも大きな声であいさつできない人が多いと感じています。その辺からも、ちゃんと指導していかなくてはと思っています。小学校の子どもたちの登下校を見ている時に、まちづくり協議会で見守り隊をされていますが、冬の寒い中でも本を読みながら子ども達を待っておられたりするので、感動します。新しい試みとして、あいさつに手話を使ってみたらどうかと考えているところです。

(会長)

あいさつも、「おはよう」や「いってらっしゃい」と手話でもできると良いですね。

(委員)

学校関係者が多い中、観光協会から出席させていただいています。私は、ぬくもりの郷に勤めていますが、日曜日などは1,000人を超えるお客様がいらっしゃいます。接客業なので全く知らない方に「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」を言いますが、従業員へのあいさつの教育を常々やっています。家族連れのお客様が多く、子どもは必ずと言っていいほどあいさつを返してくれますが、大人の方はなかなか返してくれません。最初から最後まで無言の方もいらっしゃいます。返ってこなくてもこちらは言い続けています。スポーツの団体や保育園の体験入浴で来られる団体などは、完璧にできている印象です。老人クラブの方達には向こうからフランクに声をかけていただいています。世代やグループによって、対応が違ふと感じます。そういうことをお伝えしようとして参加させていただいています。学校へ行っても、まずあいさつが第1歩だと思います。また、あいさつはお客様と接するきっかけにもなりますので、大切な事だと思っています。

(会長)

たとえ返事が返ってこなくても、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」と言うことで、あいさつの心、おもてなしの心が相手に伝わっているからこそ、それだけたくさんの方々に来ていただけているのだと思います。

(委員)

条例要綱等の資料12ページに丹波篠山の教育が載っていますが、市の教育部門の施策としてあいさつの実践を頑張っていきたいと思いますということで取り組んでおります。目的、目標のところにあるように、あいさつというものは、学校づくり、まちづくりのきっかけであって、それぞれのまちや地区で、大人も子どもも普通にあいさつできることによってコミュニティが出来上がっていくと。先ほども知らない人にはあいさつしにくいということがあり、また、前回のこのあいさつ運動市民委員会でも、市民みんなであいさつ運動を進めることが大切だということでしたが、どうしても子どもをどうしようというような意見が多くなります。子どもも自分が地域の一員であるということを理解し始める精神的な年齢になると、当然近所の人にあいさつするようになります。中には、子どもがしても地域の大人が返してくれないという意見もあります。結局、よく例に出されるのは、大阪駅で電車から降りてあいさつしないですね。なぜしないか、それはコミュニティではないからです。自分たちがまちの一員であることを大人も子どもも理解して、学校は学校の一員であると。そこで一緒に生活をしている一員として理解することと一緒に、あいさつをやっていかないと身につけていかないと。教育委員会では、目標に、まちづくり学校づくりの方法として、自然にあいさつできる子どもにしていまいと設定しています。それぞれの学校でも、あいさつが自然にできるの

は、身近な人であると認識し、地域のコミュニティがよくできていてそれを理解していないと、全く見も知らない人に大きな声であいさつしても変だなということにもなりかねません。何を目標にあいさつ運動をしているかを踏まえなくてはならないという風に考えております。

(会長)

とても分かりやすかったです。コミュニティがあるから、そこであいさつをしよう、まちづくり学校づくり地域づくりしていこうということが、再認識できて良かったです。

(委員)

条例の目標にも最初にそう書かれています。

(委員)

小学校に勤めて1年ちょっとになります。子ども達にあいさつを身につけさせるという言い方をあえてしますが、そのためには学校の教育も当然必要ですが、地域と家庭この3者ががっちりしなければならないということを今痛感しております。

小学校の校長としての一番大事にしなければならない仕事は、朝にあると思っっています。校門のところ立って、毎朝全児童を受け入れ、あいさつしています。「あいさつが自分からできている」や、保護者が「自分の子どもがあいさつしている」というのが、本校の1学期の時点では、約80%という結果が出ていますが、実際80%という数字を信頼して良いのか、学校の中で議論していかなくてはいけないと思っっています。パーセンテージを上げていくためには、何をしなければならないのかということを経査し、学校が地域のみなさん、保護者のみなさんに発信をしていかなくてはと思っっているところで、中には大きな声であいさつが返ってこない子がいるのも事実です。そういう子どもだからこそ、目をしっかり合わせてあいさつするように心がけているつもりです。今はコロナウイルスの影響で、大きな声を出して言うことができませんし、子ども達は熱中症予防のためマスクをはずして登校してきますので、大きな声であいさつをしようという指導がしにくくなっています。小学校低学年の頃から、大きな声であいさつすると気持ちが良いということ、なぜあいさつしなければならないのかを考えさせることによって、気づきがあれば自発的にできる子が育っていくのではないかと考えております。

先ほどから聞かせていただいているとおりに、地域で大変お世話になっていること、嬉しくまたありがたい気持ちでいっぱいです。今後ともお世話になりますが、どうぞよろしく願ひします。

(会長)

約80%があいさつできているというデータは、どのように調べられましたか。

(委員)

本校では、学校評価という子ども達や保護者へのアンケートを、年2回取らせていただく機会を持っています。最近とった1回目の集計がそういうことでしたので、紹介させていただきます。

(会長)

今後とも、見守り隊にはお世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

(委員)

中学生は、なかなか声が出にくいというご意見がでておりましたが、やはり年齢的にも思春期に差しかかったり、自我が出てきたりする時期ですので、それはそれで成長の一過程なのだと感じています。それぞれのやり方で良い、一人一人を認めるということが大事だと思います。中には大きな声であいさつすることが苦手な生徒もいますが、少しでも反応してくれたら、精一杯の反応と捉えていただけるとありがたく思います。

私は4月から本校でお世話になっており、前任校でもそうですが、生徒会の中であいさつ運動をしていこうということを活動の1つの項目に挙げており、教師側がしなさいというのではなく、生徒自身が自発的に働きかけをしていくのを待つというスタンスで見守っています。中学校が終われば義務教育も終わります。社会に対応できるように、あいさつができるということは大切なので、自発的に自分たちでやっていけることが大切だと感じています。部活動ではどの部もとてもしっかりとあいさつできますが、教室の中ではなかなかできていないこともあり、部活動でせつかくできていることが、他でもできるようにしていかななくてはならないと感じています。よく知っている地域の人にはあいさつできていますが、知らない人には声をかけられても返事しにくいのだと思います。

資料を見ていると、JRの駅やサンセブン等であいさつ運動されているということですが、周りの大人の反応を教えていただけたらありがたいです。

(事務局)

駅であいさつ運動をしていると、ほとんど返ってこないというのが正直なところです。ただ、月曜日から同じ時間帯ですので、木曜日か金曜日あたりになると、会釈が返ってきたりします。ある程度顔を認識され、慣れてくると会釈や返事が返ってくることもある、という印象があります。相手の方が、こちらがこういう運動をやっているのだという認識を持っていただけると、返ってくる場合があります。

(会長)

サンセブンやザ・ビッグのようなスーパーではどのような感じでしょうか。

(事務局)

先日、ザ・ビッグにあいさつ運動に行かせていただきました。このような運動をやっているのだなという感じでした。不特定多数の方にはしていますが、ほぼ返ってこないです。たまに「こんにちは」と返ってくる時もあります。啓発活動として取り組んでおります。

(委員)

PTAの役員ですので毎年続けてやっているわけではありませんが、あいさつ運動としては、3年ほど前、城東小学校として初の試みで補助金を活用してあいさつ運動のノボリ

を作成して、PTA の役員、児童会の三役たちと学校で立ち番をしました。中学生の娘に聞くと、市内の違う学校から転任されて来られた先生から「東中の生徒はみんなあいさつしてくれるからすごいな」と言ってもらえると聞いてきました。東中が特別なのかもしれませんが。

個人的な体験ですが、夕方ジョギングをしていると、全く面識のない高校生の方から「帰りました」とあいさつしてくれます。地域性があるのかもしれませんが、比較的三世代で暮らしている家庭の中であいさつができているのかもしれませんが。

うちの家庭ではあいさつもですが、まず玄関で靴をそろえなさいと言っています。こういうことを教えるのは、昔の著名な道徳の先生が、一人前の人間にするには、あいさつしなさい、それから玄関の靴をそろえなさい、大きな声で返事をしなさいと。それができるとそこそこ曲がった人間にはならないという言葉が参考になっています。多分学校の現場でも、自転車置き場の様子や、玄関の下駄箱の靴の揃え方を見たら大体その学校がどのような学校か様子が分かります。その辺が連動しているのではないかと思います。あいさつは小さいうちからしっかりしていると、先ほどの高校生のように面識がなくてもちゃんとあいさつできたりするのだと思います。

(委員)

補導員として、デカンショ祭りや秋の祭礼で声かけをしています。ところが今年はコロナの影響で開催されませんので、活動自体していません。ただ一つ自慢できることが、近所で小学生の孫がバス通学をしております。朝、道を渡るときに車が急いでいるため止まってくれないのでそれを止めるために長男と次男の家に行っており、そこではあいさつできています。

(委員)

あいさつ運動ということで、地域や仕事場で色々な年代の方と出会いますが、朝、小中学生に「おはよう」とあいさつされると気持ちの良いスタートをきれます。元気な子もそうでない子もいますが、その子の個性もありますので色々な形であいさつさせてもらっています。

やはりあいさつは色々な場面で入り口になると思いますので、職場でも自分から職員に積極的にあいさつするよう心がけています。小さな声であっても返事が返ってくれば、元気かどうか分かります。元気がなければ「昨日何かあったの？」と聞くことができますし、そういうコミュニケーションもとれ、良い相乗効果になりますので、今後も続けていきたいと思っています。

(委員)

子ども達にかかわる場面として、JA が支所で見守り活動をされておられることをお伝えしておきます。私が把握しているかぎりでは、篠山小学校、城北畑小学校で立っている時、小学生、中学生、大人の方も含めてしっかりあいさつされています。あいさつ運動に参加させてもらっていると、大人の方もみなさん元気よくあいさつされています。

やはり面識がない場合は難しいとは思いますが。団体ではしっかりあいさつできていても、個人だとなかなか難しいところがあると思います。私はあなたの敵ではないんですよ、あなたの存在を尊重しますよという大げさですが、そういうコミュニケーションとしても、あいさつをしっかりしていきたいです。改めて、大人がしっかりあいさつしていけば子どももだんだんあいさつをしてくれるようになっていくと思います。

(会長)

まず、自分ができているのかということですよね。自分を見つめ直す良い機会でもありますね。

(委員)

私の家族は妻と娘で3人です。最小の単位のコミュニティです。家族では「ただいま」「おかえり」など必ずあいさつをします。たまに調子が悪くて私の声が小さいと、娘から「お父さん、聞こえなかった。もう一度。」と言われてしまいます。私の住んでいる所では22件の集合住宅ですが、業者など知らない人が入ってきてもあいさつするようにしています。野中の地域の中でも必ずあいさつをします。親しくない人でもします。あいさつは自分の心を豊かにします。返事が返ってこなくても、一つ一つゆっくりで良いのであいさつ運動を進めていきたいと思っています。

(会長)

あいさつ運動推進事業補助金について、申請が9月末までとなっていますが、周知の方法が文書、要綱の送付となっています。このような補助金があるということ、まちづくり協議会などに実際に声をかけると分かりやすいと思うので、していただきたいと思います。地域の見守り隊の管轄はどこになるのでしょうか。

(事務局)

まちづくり協議会や老人クラブを中心に活動されていたり、あるいは個人でも活動されていたりします。管轄というと、まちづくり協議会でしたら市民協働課で把握しているかもしれません。私の地域では個人で毎日立っておられる方がいらっしゃいます。その方は団体やグループに属さず、個人の活動としてやっておられます。

(会長)

以前にもお聞きしたと思いますが、そういう方を表彰するような機会はないんですよ。

(副会長)

推薦すればあるのですが、その方は残念ながら辞退されました。

(会長)

そういう方達に、できれば今日いただいているこのあいさつのクリアファイルを感謝の一言を添えてお渡しいただければ喜ばれると思います。それでは副会長、閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

みなさん貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございました。池に石を投げかけた輪がどんどん広がっていくように、あいさつの輪が広がって欲しいと常々思っています。また今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はお疲れ様でした。

(9) 閉会 15時4分